

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和4年3月1日

公表: 令和4年3月10日

事業所名        びよキッズ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		活動に必要なもの以外は片付け、スペースを有効活用している。	安全にサービスが提供できるような環境を整えていく。
	2	職員の配置数は適切である	○			研修や専門的な資格の取得等、職員の質の向上を図っていく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○	○		より利用児が過ごしやすい環境になるよう検討を重ねていく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		業務担当表を作成・周知・実行し、部署内会議にて振り返りを行い業務改善に努めている。	引き続き業務効率化に努める。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		意見箱の設置など意見や意向を伝えやすいように環境を整えている。	保護者の方々が意見を言いやすいように更なる関係性の構築を目指す。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			保護者向け評価表の意見を真摯に受け止め改善に努めていく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○			他部署など違う視点で評価をする仕組みを構築し業務改善に繋げていく。
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		研修を欠席した職員に受講した内容を伝達するなど全職員が共有できるようにしている。	研修の機会を確保し職員の質の向上に努めていく。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		半年に一度モニタリングと共にアセスメントを行い、適切な支援計画を作成している。	本人にとって何が一番重要なかを見極めながら保護者の思いも汲み取り作成していく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		保護者にとって負担にならないようなツールを使用している。	職員にとっても分かりやすく且つ保護者の負担軽減のため、アセスメントシートの見直しを常に行い改善していく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		活動の内容と目的を週案という形で表にし、チームで確認し合っている。	チームで支援していく事を意識していく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		週案を立て、グループ分けなど行うことで活動や関わる職員を固定しないようにしている。	引き続き活動の目的を共有し実践していく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		週案で平日、休日、長期休暇に分けて活動を設定している。	過ごす時間に見合った活動を今後も設定していく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		アセスメントにより保護者の要望も併せて聞き取りながら利用児の特性を把握し計画を立てている。	今後も利用児の特性や成長段階に応じた計画を立て実践していく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		当日の活動内容及び目的、配置をボードに書き、職員間で共有している。	打ち合わせを行い職員一人一人の役割を明確にする。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		支援終了後に当日の記録を職員同士で共有する時間を設けている。	当日、出勤していなかった職員にも情報共有できるようにする。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		毎月ケース会議を行い、支援方法など議題に挙げ検証している。	日々の記録を今以上に充実させていく。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		誕生月とその半年後に部署内会議で話し合いをしてモニタリングに繋げている。	成長段階に応じて見直しをしていく。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○		発達に応じた自立を促すと共に創作活動や地域との交流を図った活動も取り入れている。	社会性を育みながら、1人1人の有する能力を見極めながら支援していく。	

関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		支援担当者が参加できるように調整していく。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○	電話や学校へお迎えに行った際、担任の先生と話をし情報共有している。またトラブルが生じた際には必ず学校へ連絡し調整を図っている。	今後も密に連携を図っていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○	医ケア児を受け入れる際、必ず主治医の意見書をいただいている。	今後も安心して通えるようにしていく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○	相談支援員及び保護者などを通じてでも情報を得ている。	事前に情報を得る事で、利用児または保護者の方々が困惑しないように対応していく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○	サービス担当者会議への出席及び電話などで情報提供をしている。	今後も障害福祉サービス事業所の方々困惑しないように情報を事細かに提供していく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○	自立支援協議会に出席し事例検討を行う事で助言を受けている。	基幹相談支援の研修等にも積極的に参加していく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		障がいのない子供達とも交流を図れるよう調整していく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○	必ず出席出来るように調整している。	今後も積極的に参加し、事業所間の繋がりの強化を行っていく。
保護者への 説明責任等	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	○	お迎えに来た保護者と話しをする時間を設けている。	引き続き、学校での状況、事業所での状況を必ず伝えていく。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○	個々の相談に応じて家族支援を行っている。	今後は保護者向け勉強会及び研修という形でプログラムに組み込めるよう検討していく。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	契約時、計画作成及び変更時、モニタリング時に詳しく話をする時間を必ず設け質問等にも丁寧に応じている。	変更等あった場合は、その都度丁寧に説明し同意を得ていく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	面談時以外にも保護者と会う時は保護者の表情を汲み取り声掛けしている。	保護者とのコミュニケーションを大事にしていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		保護者同士の繋がりの場の提供を行っていく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○	知り得た情報や、当法人で対応可能な事は速やかに伝えている。	今後も迅速対応していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	毎月お便りを発行し、保護者へお渡ししている。またそのお便りを掲示したり、Instagramを利用し情報を発信している。	引き続き保護者が分かりやすいように活動の様子など発信していく。
	35	個人情報に十分注意している	○	外部へは匿名を使用するなど十分配慮している。	保護者の同意を得て正しく取り扱っていく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	特性や状況に応じて伝達方法を変えている。	本人や保護者の特性を十分理解し出来る限り配慮していく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○	福祉センターや町内の作品展に、利用児の作品展を出展させていただくなど交流を図っている。	今後も共生を目指し地域と交流を図っていく。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○	様々な場面や状況を想定し防災、防犯訓練を実施している。	事業所のパンフレットに載せるなど保護者へ周知してもらおう。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	月に一度の防災、防犯訓練の実施や、消防団による応急救護訓練なども定期的に行っている。	職員一人一人が役割を把握すると共に、どの場面や状況においても冷静に判断し上手に連携が取れるよう訓練を重ねていきたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	虐待防止委員会を設立している。	定期的に話し合いを行い、共通理解に繋げている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○	毎月会議内にて検討し個別支援計画への記載、保護者への説明など行っている。	事案がある場合は適切に対応していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		該当児がいる時には十分把握し対応していく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	毎月の会議で振り返りを行い職員間で共有し対策している。	引き続き会議で振り返りを行い、共有していく。